

スポーツ観戦と運動実施の関係に関する研究 ～高知ユナイテッド SC の観戦者を対象に～

1240544 吉川瑞人

指導教員 前田和範

研究背景

コロナ禍の影響がありながらも、近年日本ではスポーツの現地観戦やテレビやインターネットを用いた観戦への需要と関心が高まりつつある。また、運動の実施はスポーツ基本法で重要視され、様々な効果が期待されているが、成人のスポーツ実施率は、スポーツ庁の目標に達していない。そのような中、スポーツ観戦が運動実施に影響を与えた事例があり、これらの関連性が研究できれば、スポーツ産業全体の活性化にもなりうるだろう。しかし、先行研究では様々な見解があり、本研究ではこれらの関係を改めて明らかにするとともに、スポーツ観戦の感動場面との関連性にも注目し検討していく。

研究目的

本研究は、「スポーツ観戦と運動実施の関係を改めて明らかにすること」と「スポーツ観戦と運動実施の関係性とスポーツ観戦における感動場面に関連性があるのかを明らかにすること」の2点を目的とした。

研究方法

高知ユナイテッド SC の観戦者を対象として、アンケート調査を行った。主な調査項目は、基本的属性、運動実施頻度、スポーツの直接観戦頻度、スポーツの間接観戦頻度、スポーツ観戦と運動実施の関係に関する項目、スポーツ観戦の感動場面に関する項目であった。

分析結果

運動実施頻度と間接観戦頻度が高い人ほど、スポーツ観戦と運動実施の関連性を高く感じることが明らかになった。また、スポーツ観戦と運動実施の関連性を高く感じる人がスポーツ観戦の感動場面の「共鳴・一体感場面」「卓越したプレー場面」「劣勢からの活躍場面」「懸命な姿場面」で感動を大きく感じる事が明らかとなった。

考察・結論

スポーツ観戦や運動実施を高頻度で実施する人ほど、スポーツ観戦が運動実施に影響を与えているといえる。また、満足度の高いスポーツ感動場面の提供は、運動実施意欲にも影響を与えることが確認された。今後は、「する」分野のスポーツ参加者を増やし、スポーツ産業全体の活性化を行うためにも、観戦機会の多様化や選手の共感や感心を得られる工夫を取り込むなど、「みる」分野での工夫からのアプローチも必要なのではないだろうか。